

### Target3

## 市民が主役になって地域をつくり 交流を楽しむまち

### 市民活動団体の支援と 地域コミュニティの活性化

地域コミュニティの活性化は、「第5次白石市総合計画地域計画」の各地区のまちづくり宣言を実現するため、創設6年目となる「まちづくり交付金」を活用した、市民が主役の地域づくりを促進します。

「城花町しろいし事業」では、市民と行政が対話によりさまざまなアイデアを出し合いながら、花と緑を活用した白石の魅力アップに向けた取り組みを推



▲平成28年12月に益岡公園内に呼び木として桜の苗木を植樹した子どもたち

進するとともに、人材の育成を図り、市民が主役の地域づくりを促進します。

また、登別市・海老名市・札幌市白石区との姉妹友好都市交流がさらに発展するよう、白石市姉妹友好都市交流協会と連携し、次世代を担う青少年のスポーツ・文化活動の親善交流を進めるとともに、青少年の海外派遣事業を継続し国際感覚豊かな青少年の育成を図ります。

さらに、広域連携の推進として、歴史・文化的なつながりが深く、ヒト・モノの交流が多い福島市を中心とする市町村で構成する「福島圏域

成する「福島圏域首長懇話会」に引き続き参画し、観光・移住・定住分野などでの県境を越えた、さらなる広域連携を進めてまいります。

### Target4

## 産業の活力を生む 新しい価値を創造し続けるまち



▲昨年も大好評の売れ行きだった白いトウモロコシ（ピュアホワイト）を初めてする白石三白野菜。農産物のブランド化に向けた取り組みを推進する

### 移住・定住の促進と 雇用の確保

定住促進は、移住・定住の拠点施設として「白石市移住交流サポートセンター」を開設し、首都圏などからのUI-Jターンの促進を図ります。

企業誘致は、今後も、産業の振興や雇用の確保を図るため、私、自らが企業立地セミナーに参加するなど、さまざまな機会をとらえトップセールスを積極的にまいります。

近年深刻な社会問題となっている空き家等は、平成29年3月に策定した「白石市空き家等対策計画」に基づき、所有者に対す

る意向調査を行い、引き続き適切な管理の促進や有効活用に向けた空き家等対策を進めます。

農林業の振興は、食味日本一の「しろいし米」復活プロジェクト、白石三白野菜の生産・販売など、農産物のブランド化に向けた取り組みを引き続き支援するとともに、農地集積を推進

る意向調査を行い、引き続き適切な管理の促進や有効活用に向けた空き家等対策を進めます。

平成30年度は本市の一大イベントである「全日本こけしコンクール」が第60回、「白石市農業祭」が第40回の記念の年を迎えることから、市民の皆さんとともに記憶に残るイベントを企画することにより、交流人口の拡大を図ります。



1「食味日本一」の「しろいし米」復活を支援  
2建設中の移住サポートセンターを見学する「地域おこし現地見学ツアー」の参加者たち

### Target5

## 美しい自然を受け継ぎ 安全で快適に過ごせるまち



### 防災対策の充実

防災対策は、平成26年度に策定した「白石市地域防災計画改訂版」に基づき、さらに防災対策を推進するとともに、近年、全国的にも頻発しているゲリラ豪雨や台風による大雨災害、火山災害などさまざまな災害への対応に万全を期すことにより、災害に強い安全・安心なまちづくりを目指します。



1 地域の安全・安心を守るため、火災時に使用する小型動力消防ポンプの点検を行う消防団員  
2 年度内の供用開始に向けて工事が進められる白石沖西堀線

今後とも火災のみならず地震や豪雨災害などの活動時の安全確保を行う必要があることから、消防団の装備充実にも努めるとともに、消防団員の確保に努めてまいります。

水道事業は、市民の生活と産業を支える重要なインフラです

が、施設の老朽化が進み更新が急務となっております。施設の統廃合やダウンサイジングを図り更新費用を圧縮するとともに、より効率的な施設となるよう計画的に更新を進めます。また、経営の合理化と安定的な事業継続のため、料金関係業務や施設管理業務などの民間委託を進めます。

下水道事業は、東日本大震災による災害復旧工事が完了したことから、今後は下水道施設の長寿命化を中心に事業を行います。また、経営基盤を強化し持続可能な下水道事業とするためには、下水道使用料の改定を行わなければなりません。今後も経費の削減を進め、さらなる事業の健全化に努めます。

都市環境の整備は、都市計画道路「白石沖西堀線」の白石駅前から国道113号までの区間が、平成30年度初めには全線供用できる見込みとなり、都市内ネットワークが飛躍的に向上するものと期待しています。

公共交通網の確保は、既存市民バスの時刻や路線などの見直しを行い、利便性の向上を図るとともに、新たな交通として、中心市街地循環便を試験的に導入し、将来にわたって市民が安心して暮らし続けることができ公共交通の確保に努めます。

## 人・暮らし・環境が活きる 交流拠点都市へ！



▲今年も夏に事前合宿を行う予定のベラルーシ新体操ナショナルチーム

石の未来を考えていく契機となるよう、平成29年12月に「しろいし慕心プロジェクト」をスタートさせました。本年は、さまざまな機会をとおらえ、歴史文化の継承とともに、この節目の年を生かした企画を通して交流人口の拡大を図ります。

これからも、さまざまな手段で情報発信に努めるとともに、市民の皆さんとともに「人・暮らし・環境が活きる交流拠点都市」を形成することで交流人口を拡大し、地域の活力と賑わいを創出します。



※施政方針の全文は市公式ホームページ（市長の部屋）に掲載しています。